

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成17年1月13日(2005.1.13)

【公表番号】特表2000-516572(P2000-516572A)

【公表日】平成12年12月12日(2000.12.12)

【出願番号】特願平9-540522

【国際特許分類第7版】

C 0 7 K 16/18

A 6 1 K 38/00

A 6 1 K 38/45

A 6 1 K 38/46

A 6 1 K 39/395

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 25/28

C 0 7 K 19/00

C 1 2 N 5/10

C 1 2 N 15/09

C 1 2 P 21/08

C 1 2 Q 1/68

G 0 1 N 33/566

G 0 1 N 33/68

【F I】

C 0 7 K 16/18

D

A 6 1 K 39/395

N

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 25/28

C 0 7 K 19/00

C 1 2 P 21/08

C 1 2 Q 1/68

A

G 0 1 N 33/566

G 0 1 N 33/68

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 37/52

A 6 1 K 37/54

C 1 2 N 15/00

A

C 1 2 N 5/00

B

【手続補正書】

【提出日】平成16年5月13日(2004.5.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成16年 5月13日

特許庁長官殿



1. 事件の表示

平成09年特許願第540522号



2. 補正をする者

氏名（名称） ヴィンアッカー、エルンストルートヴィッヒ

3. 代理人

住所

〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名

弁理士 (6214) 青山 葵



万審式査



4. 補正対象書類名 請求の範囲

5. 補正対象項目名 請求の範囲

6. 補正の内容
別紙のとおり。

(別紙)

請求の範囲

1. (a) プリオントンパク質を含むと予測される試料を、プリオントンパク質に特異的に結合可能なシャペロンと接触させ、
(b) プリオントンパク質がこのシャペロンと結合するかどうかを決定する工程からなることを特徴とするプリオントンパク質の検出方法。
2. (a) プリオントンパク質を含む試料を、プリオントンパク質に特異的に結合可能なシャペロンと接触させ、
(b) シャペロン-結合タンパク質をシャペロンから単離する工程からなることを特徴とするプリオントンパク質の単離方法。
3. プリオントンパク質に結合可能なシャペロンの断片、同族体または誘導体を用いる請求項1または2に記載の方法。
4. シャペロンがHsp60またはGrpELである請求項1～3のいずれかに記載の方法。
5. シャペロンが融合タンパク質の部分である請求項4に記載の方法。
6. プリオントンパク質がPrP[°]および/またはPrP^sのイソ型である請求項1～5のいずれかに記載の方法。
7. シャペロンが検出可能にラベルされている請求項1～6のいずれかに記載の方法。
8. シャペロンが固相に結合している請求項1～6のいずれかに記載の方法。
9. PrP[°]およびPrP^sのイソ型それぞれ、好ましくはPrP^sに対するシャペロンの結合性の強さの差異を利用してPrP[°]のイソ型が試料中に存在するか否かを決定するように工程(b)を改変した請求項1～8のいずれかに記載の伝染性海綿様脳症のインビトロ診断方法。
10. 請求項1～9のいずれかに規定するシャペロンとプリオントンパク質との複合体。
11. 伝染性海綿様脳症の予防または処置用の医薬を調製するための、請求項

1～5のいずれかに規定するシャペロン、または請求項1～5のいずれかに規定するシャペロンを不活性化する物質の使用。

12. 請求項1～5のいずれかに規定するシャペロン、または請求項1～5のいずれかに規定するシャペロンを不活性化する物質を含む、伝染性海綿様脳症の予防または処置用の医薬組成物。